

エッチュウバイの資源管理に関する研究(石見地区)

(第2県土水産資源調査・漁獲管理計画策定事業)

道根淳・石田健次・由木雄一

1. 研究目的

本県沖合域に分布するエッチュウバイの資源・生態と、それを対象とするばいかご漁業の実態を明らかにし、本資源の有効利用を目的とした資源管理指針の作成ならびに漁業情報の提供を行なう。これにより資源の維持・増大と漁業経営の安定化を図る。

2. 研究方法

(1) 漁業実態調査

解析に用いた資料は、ばいかご漁業漁獲成績報告書と漁獲統計資料(大田市漁協、和江漁協、仁摩町漁協、平田市漁協)各漁業者が独自に記録している操業日誌である。これらの資料をもとに、漁獲動向、エッチュウバイの価格動向および漁場利用について検討を行なった。

(2) 資源生態調査

大田市漁協、和江漁協ならびに仁摩町漁協に水揚げされる漁獲物の殻高と体重を銘柄別に測定し、測定資料と銘柄別漁獲箱数から出荷されるエッチュウバイの殻高組成を推定した。推定された殻高組成と村山ら¹⁾が求めた Age-length Key を用いて、漁獲物の年齢組成を求めた。

3. 研究結果

(1) 漁獲動向

エッチュウバイの漁獲量は 93.6 トン、水揚金額は 5,091 万円で、量・金額とも前年を大きく下回った。また、1 隻当たりの漁獲量は 13.4 トン、水揚金額は 727 万円で、昭和 63 年以降最低となった。漁獲の中心は殻長 70~90mm で、主となる漁獲範囲が前年より小さくなった。

(2) 資源状態

漁獲率は 46.3%と前年より 2.6%下がったが、依然高い傾向にある。今漁期の 1 航海当りの漁獲量は前年を大きく下回り、特に 3 歳以下の小型貝の減少が大きかった。

エッチュウバイの資源状態は、低位安定傾向にあると推測されるが、漁獲努力量の増加などを考慮すると、資源状態は決して良好であるとは考えられない。

4. 研究成果

- 調査で得られた結果は、島根県小型機船漁業協議会ばい部会の資源管理指針として利用された。
- 平成 9 年から大田市沖のエッチュウバイを県知事 TAC 指定魚種に定め、日御碕以西の島根県沖合海域におけるエッチュウバイ資源の保存及び管理計画を策定している。

5. 文献

- 1) 村山達朗・由木雄一：島根県水産試験場事業報告書(平成 4 年度) 64-69(1991)。